

子どもの姿から保育教育をスタートさせるということ

11月24日に、視察研修として、大阪府豊中市にある島田こども園を訪問しました。

島田こども園では、子どもの姿を出発点にして、子どもたちの生活経験と重なる活動を設定しています。その取組は、クラス集団が形成している価値観や課題を分析し、日々の観察や公開保育をとおして「気になる子ども（取組の検証軸とする子ども）」が集団のなかでどのように活動していたのかを、仲間づくりの視点で検証しながらすすめられています。

具体的な保育活動として、昨年度と今年度の研究テーマである「言語活動」に重点を置いた「ごっこあそび」や朝の会でしている「お互いのくらしを伝え合うインタビュー」の取組などを紹介していただきました。

園長先生をはじめ島田こども園の保育士の方々と懇談では、人権保育が、一人ひとりに同じように（均一に）かわるのではなく、生きにくさ（人権課題）を抱えさせられている子どもの課題をつかんだうえで、まわりの子どもたちとともに「お互いを尊敬し、尊重する価値観」を共有し合い、「さまざまな人と豊かにかかわり、ともに生きていく力」を育むことをめざすものであるということを確認できました。



人権保育プロジェクトの活動をふりかえって

一年間の人権保育プロジェクト会議で、「人とつながる」とは、どういう関係を結ぶことなのか、「どうすれば人と人はつながることができるのか」を考えてきました。そして、話し合いをとおして、「つながり」は、相手から信頼を得ることによって創られるものであると気づきました。

それは、普段の何気ないふとした場面での保育士の言葉がけや働きかけ、あるいは保育士自身の意識のあり方次第で、子どもや保護者と安心できる信頼関係を高めることができたり、反対に、不安にさせてしまったりするということです。

この人権保育プロジェクトの活動をきっかけにして、「子どもたちどうして安心できる関係でつながろう」「保護者と豊かな関係でつながろう」とする自分であるのか、日々の保育実践と自分自身の心の中をみつめ続けていきたいと思っています。

「つながり」が紡ぐ「つながり」

本年度の人権保育プロジェクトは、「つながり」をテーマにしました。「つながり」の大切さは言うまでもありません。子どもも保護者も保育者もつながりのなかで学び、育ち、居場所をみつけているからです。大切な意味をもつ「つながり」であるがゆえに、保育の現場において「つながり」にくい子どもは保育者の関心となります。一方で、「つながり」は、人権課題でもあります。差別、偏見は、人と人をつなぐ「つながり」にくくします。人と人が「つながっている」状態とは、差別や偏見がない状態と言えるかもしれません。

差別や偏見を取り除くことや、様々な人権課題を解決していくことは、一人の力でなし得るものではありません。保育の現場においては、保育者どうし、保育者と保護者の「つながり」によって子どもたちの「つながり」を生み出していくことができます。

本年度の人権保育プロジェクトのメンバーさんたちは、地域、年代、性別という違いを越えて「つながり」、このテーマを探究しました。プロジェクトのメンバーさんたちの「つながり」が、子どもたちをとりまく「つながり」を創っていくことを願っています。

人権保育プロジェクト アドバイザー 鈴鹿大学短期大学部 **長澤 貴**

このリーフレットのバックナンバーは、公益社団法人 三重県人権教育研究協議会のホームページからダウンロードできます。

<http://www.sandokyo.jp>

- ▶ 2006年度／「節分・雛祭り」を人権保育の視点で考える（中間報告）
- ▶ 2007年度／「節分・雛祭り」を人権保育の視点で考える（最終報告）
- ▶ 2008年度／「いじめ対応の根っこにあるものは？」
- ▶ 2009年度／「多文化共生から人権保育を考える①」
- ▶ 2010年度／「多文化共生から人権保育を考える②」

- ▶ 2011年度／「多文化共生から人権保育を考える③」
- ▶ 2012年度／「多文化共生から人権保育を考える④」
- ▶ 2013年度／「自尊感情を育むには…」
- ▶ 2014年度／「自尊感情を育むには…②」

「あそぼう!つながろう!」

～心をつなぎあう意図的なふれあい活動をどのように展開するか～

子どもたちは、だれかとつながったとき、あたたかな気持ちになり、感性を豊かにしていきます。豊かな感性が培われていくと、やわらかい心が育まれていき、物事に対しての偏見が少なくなります。

日々の園生活やあそびのなかで、集団の遠くからようすをみている子、仲間とつながることができず困っている子はいませんか？ 自分に自信をもてず、思いを相手に伝えることが苦手な子や、いつも元氣なく過ごしている子はいませんか？

こうした子どもたちの背景には、さまざまな要因があります。このことをふまえて、今年度の人権保育プロジェクト会議では、「つながり」について考えることにしました。人と人がつながるためには、どのようなことをすればよいのか、なぜつながることがむずかしいのか、などを話し合いました。子どもたちの背景や思いを受けとめ、子どもたちとたくさんあそぶことで、つながりはうまれ、広がり、深まっていきます。子どもたちが自分のことを好きになり、まわりの人を大切にできるようにするために、「つながり」を深める取組をすすめていきたいと思っています。



“人権保育”ってなに??

人権保育プロジェクト会議は、これまで10年間、「三重県解放保育研究会（三解保）」が実践・研究をしてきた「解放保育」「同和保育」を継承しながら、「人権保育」の具体的な保育内容について研究してきました。

今年度も桑名市、四日市市、津市、伊賀市、名張市より各2名の保育士の方に参画していただき、6月に人権保育プロジェクト会議をスタートさせました。今年度のプロジェクト会議では、「そもそも『解放保育』『同和保育』は、何を追求し、そのなかで保育士はどんな気づきをしてきたのか」や「その気づきを教訓にしながらどんな保育実践をしてきたのか」など、10名のメンバーであらためてその原点について話し合うことから始めていきました。

会議では、「子ども情報研究センター」（大阪）の谷畑恵子さんから、現場で取り組んでこられた同和保育の実践について話を聞いたり、豊中市の島田こども園を訪問したりするなどして、“人権保育”の理念やめざすべき方向性を確かめ合いました。その学んだことを、メンバーがそれぞれもち寄った実践事例の具体的な場面やそのときの子どもの姿と重ねながら議論しました。

～谷畑さんのお話から～

「解放保育」「同和保育」の実践研究でめざしてきたことは、**人とふれあうあたたかさや仲間とつながる楽しさをあそびのなかで積みあげ、子どもたちに一人ひとりを大切にする人権感覚や反差別の意識を育てるということ。その具体的な実践は、すべての子どもたちに保障されなければならない「豊かに育つ権利」が奪われている現実を認識することから始まる。**



谷畑さんは、ご自身の実践と研究をふり振り返りながら、「人権感覚や反差別の意識は、理屈ではなく、人とのかわりのなかで培われていくもの」「人権を大切にすると子どもたちを育てるには、子どもたちに向き合う自分たちおとなが人権を大切にしているかを常に確かめていきたい」と話されました。

わたしたちは、社会にさまざまな人権課題が存在していることを自分自身の問題として自覚し、それらによって子どもたちの命やくらしが脅かされていることを捉え、その解消、克服を教育・保育の課題に据えることが「人権保育」のあり方であると考えました。

第4回人権保育プロジェクト会議（8月31日）のようす



子どもたちに育てたい人権感覚や反差別の意識は、人と人の関係性のなかで育まれるものです。一方で、さまざまな人権侵害もまた人と人との間で生じています。つまり、さまざまな人権課題を「人と人との“つながり”の課題」として捉えることができるのではないのでしょうか。

このことから、わたしたちは、「つながり」をキーワードにして、

①子どもと子ども ②子どもと保護者 ③子どもと保育士

という3つの関係性の側面から、「心をつなぎあうふれあい活動」をどうすれば展開することができるか、を考えることにしました。



1 子どもと子ども



- 例えば…
- 集団生活に対する不安
 - 生活リズムが不規則
 - 自分に自信がない
 - 言語習得の不十分さ (障がいのある子ども、外国につながる子どもなど)
 - 子どもどうしのなかにある決めつけ、偏見
 - 多忙な家庭の状況や疾患などによる保護者の育児不安
 - 保護者の多様な養育観の影響 (過保護、過干渉、放任、厳しい「躾」など)
 - 自分の思いを言葉や態度で表すことが困難
 - 感情のコントロールが苦手

さまざまな要因があることをふまえて子どもたちをつないでいく意図的な取組を!

- ♥その子がしているあそびにまわりの子どもたちをまき込む
- ♥ふれあいあそびをとおして、心地よさを感じる (共通体験)
- ♥絵本をとおしてイメージを共有し、気持ちをくみとる
- ♥トラブルは子どもどうしのかかわり方を学ぶ機会とし、保育士が仲立ちとなり次につなげる

事例①

「まねっこあそび」をとおして ~どの動物も、どんな動きもOK~

保育士:「一人ずつ動物に変身して、みんなで友だちの動きをまねっこしてみよう」(まねっこすることをみんなで楽しむという目的を明確に持っていることで…)

★ユニークな動きをする子がいたときは…

保育士:「〇〇さんのライオンは元気がいいね」
まわりの子ども:「〇〇さんって、おもしろいね」「まねするの、たのしい!」

★動きが小さく、何の動物かわかりにくいときは…

保育士:「右足はちょっと前に出してるね」「みんな、よ〜く動きを見てね」
まわりの子ども:「あっ、手はグーやよ」「△△さんは、何の動物が好きなのかなあ」

★鳴き声をまねる子がいたときは…

保育士:「じょうずだね」「みんなもやってみよう」
まわりの子ども:「□□さん、じょうずやなあ」「すごいなあ」

◎みんなで一人の子の動きをまねすることで、順番に一人の子が主役となることができ、まわりの子どもたちがその子を受け入れることにつながっていった。

事例②

絵本(「がたんごとん」)の読み聞かせから

~あそびのイメージを共有したり、言葉のやりとりをパターン化したりする~

(絵本をとおして「がたんごとん がたんごとん」「のせてください」「どうぞ」というやりとりを共通の約束にして、あそびに入ること…)

保育士:「がたんごとん がたんごとん」
(言葉のやりとりが苦手なAの前を通る)

A:「のせてください」

保育士:「どうぞ」

A:「がたんごとん がたんごとん」

B:「のせてください」

A:「どうぞ」

◎言葉のやりとりの1つのパターンを共有したことによって、言葉のやりとりが苦手なAさんもあそびに安心して参加することができ、まわりの子とのかかわりをつくることができた。

2 子どもと保護者

こんな姿がありませんか?

気になる保護者の姿

気になる姿の「わけ」は…

生活面

- 登園(所)が遅い
- 連絡なしで欠席する
- 提出物を忘れる

対人関係

- 子どもと正面から向き合えない
- スキンシップが苦手、子どもが苦手
- 保護者どうしのつながりがない
- 笑顔がない、表情が硬い

態度・行動

- 子どもの言いなり、言いかけられない
- 子どもと思いや考えがズれている
- 保育士を責める、クレームをよく言う
- すぐに感情的に怒る、イライラしている
- いつもスマホを操作していて、話しかけにくい
- 家庭訪問を極度にいやがる

- ・生活リズムができていない
- ・生活が不安定
- ・おとな中心の生活

- ・かかわり方がわからない
- ・子育てに疲れている
- ・人見知り、人とかかわることが苦手
- ・大きなストレスを抱えている

- ・相談できる人がいない
- ・まわりの目が気になる
- ・自分の子だけをみてほしい
- ・生活が厳しい
- ・指摘されたくない

保育士は、これらを保護者の責任にせず、さらにその「要因」や「背景」をつかむことが大切です。

事例①

登園(所)時、保護者の体にくっつき離れようとしていないA

A:「ママがいい」 保護者:「もう!早く行って」

A:しつこく保護者にくっついていく

保護者:「ホンマにやめて!」

保育士: (間に入って保護者にも聞いてもらうようにして)
「Aちゃんがお母さんのこと大好きなのは、よくわかったよ。そろそろ“行ってきます”しようね」

A:「じゃあ1回だけ抱っこして!」 保護者:「ええー無理!」

保育士:「お母さん、10秒だけグーっと抱っこしたって。そしたら元気に行けると思うから」(具体的に伝える)
(抱っこしてもらって、Aと保護者でいっしょに10秒を数える)

◎保護者が抱っこから降ろすと、Aは満足して入室した。

事例②

家庭訪問で、1冊の絵本をきっかけに

保育士が、母親に絵本(「ちよっとだけ」)を読む。

母:「この絵本に出てくる子の気持ちは、私の子どものころと同じやわ」

保育士:「そうなん?よかったら、もう少し聞かせて」

母:「自分も小さいころ、親に甘えられなかったんさ」と自分の幼少のころのことを涙ぐみながら話し始めてくれる。

◎保護者の生い立ちや子どもに対する思いを聞かせてもらうなかで、これまでの子育てをふり返ったり、これからともに考えていくきっかけとなった。

3 子どもと保育士

「子ども」

例えば…

「受けとめる」ためには

- うまく甘えられない子
- 保育士を独占したい子
- 友だちよりも保育士といっしょにいたい子
- 保育士の気を引きたい子
- おとなの顔色を気にする子

職員間で話し合う

- ・いろいろな視点で、その子を見る
- ・自分自身の保育を客観的にふり返る
- ・その子の気もちや背景を知る

表面的な姿だけで子どもをとらえていると…

つながりを阻害していたものは、じつは…

- ・「またあの子や!」(決めつけ)
- ・「この子はいつも〇〇だから」(偏見)
- ・「どうかかわってあげばいいだろう…」(不安、自信のなさ)

わたしの中にこんな気もちがあったのかも…

保育士が自らの差別性や向き合い、ありのままの子どもを受けとめることで…

信頼関係がうまれる

さらに信頼関係を深めるために

- ♥ いっしょに遊ぶ
- ♥ いっしょに過ごす
- ♥ 1対1のかかわり
- ♥ ふれあいあそび

保育士